

玉小授業カスタンダード 20

「3 授業実践『14⑮』」における言語活動Ⅴ

I 体験から感じたことを伝え合う

II 調べた「事実」や「感じ・考えたこと」を伝え合う

III 発見した「法則・きまり・ルール・しくみ」などを伝え合う

IV 必要な情報を正確に取り出し、取り出した複数の情報を比較・関連付け読み取ったことを伝え合う

V 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

読み解く

① 目的に応じて、連続テキスト(文章)や非連続テキスト(図表、グラフ、写真等)から、必要な情報を正確に取り出す。

② 目的に応じて、取り出した情報を、比較・関連付けて読み取る。

③ 読み取った内容の意図や背景、理由を考えて、理解・解釈・推論して読み解く。

表現

① 主張(結論)
「私は、・・・だと思います。」
「私は、・・・に賛成 or 反対です。」

② 理由・根拠
「なぜかというとな第1に・・・第2に・・・第3に・・・だからです。」

③ 意思決定
「だから私は、これから・・・します。(～していきます。)

「3 授業実践『16』」における『振り返り(メタ認知)』とは

- 1 セルフ・モニタリング(自己点検・自己評価)
次の観点から振り返る・自己評価をすること。
 - 自分は何のために学んだのか。
 - 自分は何を学んだのか。
 - 自分はどうのように学んだのか。
 - 自分は何ができるようになったのか。
 - 自分は学習の意義・価値を実感したか。
- 2 セルフ・コントロール(自己管理・自己制御)
「セルフ・モニタリング」の結果、これからの解決策や対策について具体的に考え実行すること。
 - 自分が「分からなかった」「できなかった」ことに対して、何をどのようにすれば、解決できるか。(具体的な解決策を立て実践にうつすこと。)



1 授業を実施する前に・授業を実施した後に

- ① 各教科等の授業の進め方について、事前に学年・専科、チームで共通理解を図り、実施している。
- ② 指導後、学年で話し合い、「年間指導計画」の変更点を朱で修正し、改善（PDCA サイクル化）を図っている。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、「教える場面」と、「思考・判断・表現させる場面」を意図的に設計している。
- ④ 授業規律や授業のルールについて話し合い、合意のもと徹底されている。

2 授業準備

- ⑤ 授業開始の前に、机の上に教科書・ノート等をそろえさせている。
(授業に不必要なものが、机の上にはない。)
- ⑥ 授業開始の時間を守っている。
- ⑦ 授業始めの挨拶をしている。

3 授業実践

◇ 導入（問題把握）

- ⑧ 既習事項や生活経験に基づいて、誰もが答えられるような発問から授業をスタートさせている。（「振り返り」からスタート）
- ⑨ 「単元名」「学習のめあて」を明示している。（めあて：具体的行動目標＝ゴールの姿）
- ⑩ 「何をどのように学んでいくのか」学習の「見通し」をもたせたり、見積もりや「仮説（予想＋理由）」を立てるなど解決の「見通し」をもたせたりしている。

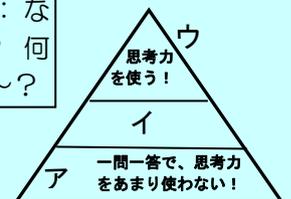
◇ 展開（追究〈自力解決・協働解決〔学び合い〕〉）

- ⑪ 問いの構造を踏まえ、意図的に発問をしている。

ア 記述的発問：いつ・どこで・誰（何）が・どうした？式は・答えは？

イ 構造的発問：（構造・分布・比較）共通点は？相違点は？どのように？

ウ 概念的発問：なぜ？ どうして？ 何のために？ もし～？



- ⑫ 児童の表情をよく観察し、つぶやきを取り上げるとともに、机間指導等で学習状況を把握（形成的評価）している。
- ⑬ 構造的に板書をしている。（学習のプロセスやポイントを振り返ることができる。児童の思考が板書されている。）
- ⑭ 児童自らの考えを表現できる場を設定している。（ペア、グループ、全体）
- ⑮ 他者との学び合い（相互評価）の場を設定している。（比較・関連付け、総合）

裏面参照

◇ まとめ（振り返り・内面化）

- ⑯ 「学習のめあて」が達成できたかどうか、「振り返り」の場を設定している。
- ⑰ 児童が次時の学習に対して、関心・意欲や見通しをもてるようにしている。

4 授業終了時

- ⑱ 授業終わりの挨拶をしている。
- ⑲ 授業終了の時間を守っている。
- ⑳ 習得した知識・技能を、補充する課題・活用する課題（宿題）を出している。

※達成目標（例）：7月までは60%（12項目）、11月までは70%（14項目）、2月までは80%（16項目）